

大学院を振り返って 國田 優志

2022年9月26日に金沢大学大学院医薬保健学総合研究科（博士課程）を修了しましたので、この場を借りて大学院生活を振り返ってみたいと思います。

まず大学院入学の際に、メディカル・イノベーションコースというものがあることを知り、興味がありこちらを選択しました。このコースには、実践英語や国内外の研修（インターンシップ）がある事が1つの特徴です。英語の授業は仕事が終わる夕方頃から始まり、実践的なコミュニケーションを学びました。インターンシップでは、他大学の学生と共に製薬会社で研修を行いました。大学生の皆さんの意欲的な取り組みに刺激をもらい、また企業の皆様にはワークショップなどを通じて、貴重な体験をさせていただきました。グループワーク、英語での模擬会議等は新鮮であり苦勞もりましたが、今でも記憶に残る良い思い出となりました。

大学院の後半は、主に論文作成に時間を費やしました。研究テーマを決めるまで時間がかかってしまいましたが、最終的に心臓核医学の臨床的な内容で研究を行いました。内容について少しだけご紹介すると、心筋血流イメージングの血流や左室機能に関連する様々な定量値と患者の背景因子を組み合わせ、冠動脈多枝病変を予測する多変量モデルを作成すること、負荷検査のみが必要な患者を選択する多変量モデルを負荷時のみのSPECT検査から作成することの2点を目的とした研究となります。本研究は多施設共同研究であり、母数の多いデータを用いて解析し、試行錯誤を重ねた結果、臨床的に汎用性の高いモデルを作成することができました。このような研究に関わることができたことで、臨床研究の難しさと面白さを学ぶことができました。最後まで大変お世話になりました、中嶋憲一先生にこの場を借りて御礼申し上げます。